

幕張新都心モビリティコンソーシアム 第7回総会 議事要旨

時間： 2024年3月18日(月) 10:00～11:40

場所： 千葉市役所新庁舎（高層棟2階）XL会議室 201～203/オンライン併用

議題

- (1) 各PTの進捗報告
- (2) 千葉市における電動サイクルシェアの導入について
- (3) サービスモデル（案）の説明等
- (4) 2024年度千葉市事業
- (5) 座長の決定

配布資料

資料1 幕張新都心モビリティコンソーシアム第7回総会資料

資料2 千葉市における電動サイクルシェアの導入について

資料3 サービスモデル（案）の説明等

議事内容（）は発言者

1. 開会

2. 議題

- (1) PTの進捗報告
 - 損害保険ジャパン様より「自動運転バスによる回遊性向上PT」について説明。
 - 2023年度下半期では、主に走行ルート、座組、コストについて議論してきた。
 - 次年度以降に行う実証実験は、ニーズ、事業性、技術面、安全面の観点で取り組むものとし、事業性については個別にKPIを設定していく。走行ルートは来街者ルート、住民ルートを検討しており、実証期間は11月から12月までを予定。

【質疑応答】

（質問：千葉共同印刷様）

- 自動運転の時速はどれくらいを想定しているのか。来街者ルートの運行間隔はどれくらいを想定しているのか。
 - 過去の実証実験を踏まえて40km/hを想定している。過去の実証では1時間に1台しか走行していなかったが、将来的に複数台を同時に走行することは検討したい。

(質問：NTT ドコモ様)

- 事業性の検討にあたって KPI を設定していくとのことだが、どのような内容か。
 - KPI の詳細な設定は今後の予定。現時点では乗車人数や費用感などを PT で議論する予定。

(質問：座長)

- 自動運転バスの場合、数を制限したバス停に必ず停車して乗降するという理解でよいか。その場合、広いエリアから色々な移動パターンの人を少しずつ拾うというよりは、乗降が多い移動パターンの人を拾うようなイメージ (駅からどこかに行きたいというよりは、走行ルート内での移動が目的) の認識でよいか。
 - その認識で問題ない。特に来街者ルートがそのイメージとなっている。

- Super Massive Global 様より「MASSIVE WORLD 活用 PT」について説明。
 - 2023 年度下半期では、幕張新都心でのイベント実施に向けて取り組んでいたが、トークノミクスが回るモデルではなく、また、ゲーム自体のクオリティに課題があったため、アプリ自体の開発が中止になったことを説明。
 - 2024 年春にゲーム性を持つ観光アプリとして、新たに「MASSIVE MAP(仮)」を展開する予定。このアプリは移動や決済のデータだけでなく、個人のアカウントや趣味嗜好のデータを掛け合わせて、AI がジェネレートして自分にあつたおすすめルートを作成することが可能。本アプリを活用して幕張新都心を周遊していただくイベントを実施していきたい。

(質問：駅探様)

- MASSIVE WORLD では商業施設の来訪を増やす、公共交通の利用を促進させるといった考えがあつたと思うが、MASSIVE MAP のアプリでもその効果が得られるような仕組みは考えているのか。
 - MASSIVE MAP でも同様に検討しており、各企業と連携していきたい。商業施設では決済、公共交通の方ではモビリティを利用できるような仕組みにしていきたい。
- MASSIVE MAP のターゲットとしては、国内・国外問わずユーザーが集まればよいという理解でよいか。
 - お見込みのとおり国内・国外問わず観光客を対象としている。

(2) 千葉市における電動サイクルシェアの導入について

- OpenStreet 様より資料に沿って説明。
 - シェアモビリティに取り組んできた背景や、千葉市でのシェアサイクルの実績について紹介しつつ、車両開発の glafit 様と連携して電動サイクルシェアに取り組んでいることを説明。

- コンソーシアムの企業には、余剰地におけるステーション設置や、法人プランの活用、試乗会の実施について、検討・協力いただきたい。また、「移動を楽しくもっと自由に」といったコンセプトのもと取り組んでいるので、共感いただける場合は、ぜひ意見交換をさせていただきたい。
- 弊社は乗り物をシェアすることを得意とするため、シェアサイクルや電動サイクル以外にも、少子高齢化に向けたスローモビリティといったパーソナルモビリティについても、今後は積極的に取り組んでいきたい。

(質問：日本サッカー協会様)

- 幕張には大きな公園があるので、電動サイクルを単なる移動手段にするだけでなく、規制もあると思うが、公園内を楽しんだり、海辺を疾走したりするような共存できるものになっていければよいと思う。走行にあたっての速度調整については、本人が操作するものか。将来的には走行エリアによって、自動で切り替わっていくとよいと思う。
 - 速度 (6km/h と 20km/h) の切替操作は本人が行う。公園の中では基本的に走行できないルールとなっている。直近では走行できるところ、走行できないところをアプリのマップの中で表示することを考えており、いずれは走行制御もできるようになればよいと思う。

(質問：シャープ様)

- 50cc の原付バイクは、そろそろ生産ができなくなることになると思うが、そのことについて御社で対応することは予定しているか。
 - 電動の原付については埼玉県でハローモビリティとして展開しているが、拡大する方向ではなく、少しずつ取り組んでいるところ。ご質問のあった件については、後ほど確認する。電動サイクルについては、現在千葉市で 60 台設置しているが、来年 1 年間で 600 台まで増加していく予定。

(質問：幕張メッセ様)

- 1 月末から電動サイクルの実証実験を開始していると思うが実績はどうか。また、幕張新都心の回遊性向上につながるかどうか。
 - 2 か月くらいの実績になるが 1 日当たり 30 回くらい (1 台当たり 0.5 回/日) なので、シェアサイクルの実績 (1 日 2000 台、1 台当たり 2.2 回/日) に比べればまだまだのところ。電動サイクルについても、認知が進んでいけば回転数は増える見込み。今後は稲毛海岸や千葉駅に向けてエリアを広げていく。

(3) サービスモデル (案) の説明等

- デロイトトーマツコンサルティング様より幕張新都心で先端モビリティサービスの実装を加速化させていくために千葉市からの業務委託を受けて策定している「サービスモデル (案)」と、新たな取組みとしての「デジタルツイン実証」の概

要について、資料に沿って説明。

○サービスモデル（案）

- 千葉市はこれまで他地域ではあまり見ないほど、自動運転やサービスロボット、オンデマンド交通、パーソナルモビリティなどの実証実験を実施し、多くのプレイヤーが取り組んでいる。一方、実証実験は行われているものの、実装には至っておらず、その理由としては社会実装までの道のりが不明瞭、マネタイズが難しいといった課題があると考えられる。
- そこで、幕張新都心にどんなサービスを実装すべきかといった考えを示すために千葉市では「サービスモデル（案）」の策定を進めている。策定にあたっては幕張新都心におけるモビリティの目指すべき姿を具体化しつつ、全体像を明確に示し、事業化を推進していく。来年度は策定した「サービスモデル（案）」を実現していくために、各事業者と調整を進めていく予定。また、モビリティサービスの提供だけでなく、データの利活用による都市運営の最適化も考えている。
- サービスモデル（案）のコンセプトとしては、直接的に価値を受益する利用者からの運賃収入だけでは黒字化は難しいため、間接的に経済的な価値（例 来街者増加に伴う売上・不動産価値の向上）や、社会的な価値（例 移動困難者の生活の質の向上）を受益する方からの資金回収により赤字分を補うべきといった考えになっている。
- 来年度はサービスモデル（案）を事業化していくため、コンソ会員とコミュニケーションをとりながら、より深い検討をしていきたい。

○デジタルツイン実証

- 千葉市では自動運転の実証をこれまで進めてきたが、安全性担保の壁や、実運用の壁、そして拡張性・持続可能性の壁といった課題があると認識しており、現時点では1つ目の安全性担保も超えられていないところ。これまでのリアルの実証のみでは2026年までの実装は困難。
- そこで、様々な走行条件や車両パラメータを可変させて何度も試すことができるデジタルツインを活用したバーチャル実証実験を行うことで、これらの課題を乗り越えることができると考えている。
- 今回構築するデジタルツイン環境や、自動運転実証の成果については公開していく予定なので、今後のサービス実装に向けて各企業で活用してほしい。

（質問：なし）

(4) 2024年度千葉市事業

■ 千葉市より資料に沿って説明。

- 2024年度は、これまでのパーソナルモビリティとサービスロボット、MaaSの

社会実装サポート事業を整理し、柔軟に活用できるよう未来技術モビリティ社会実装サポート事業（①最先端モビリティサービス導入支援【ハード】、②モビリティ連携システム等開発・導入支援【ソフト】）の補助制度を創設した。

- 自動運転モビリティ実証については、2024年度は補助から委託に変更している。本委託は国土交通省の補助金獲得を優先としており、獲得した場合は執行しないものとし、仮に獲得できなかった場合の予備財源として用意したもの。
- デジタルツインを活用した自動運転車サービス導入支援については、本年度に公募して契約しており、来年度末まで実施していただくもの。
- 上記の事業については、国費を財源としているため、交付金内示結果により、変更の可能性あり。結果が分かり次第、コンソーシアム会員には連絡する。

（質問：損害保険ジャパン様）

- 自動運転モビリティ実証委託については、デジタルツインと紐づくものなのか。
 - 基本的には、デジタルツインで検証したものを、リアル環境でも検証するために予算化したもの。しかし、必ずしもデジタルツインの取組みに紐づかなければいけないというわけではなく、例えば意義のある自動運転の検証ができるものであれば対象となる可能性はある。

（5） 座長の決定

- 千葉市より、来期の座長は今期と同様、東洋大学国際学部国際地域学科の岡村敏之教授に2025年3月31日までの任期で再任することを提案。
 - 全員異議なし

3. 連絡事項

- 事務局より、以下の点を説明。
 - 本日の資料及び議事要旨の千葉市ホームページへの公表について説明。
 - 2024年度から総会の開催時期を年度末のみに見直し、10月ごろに中間まとめ報告会を、来年3月に第8回総会を開催する旨説明。
 - 次年度のコンソーシアムへの参加意向について近日中に行う旨説明。

4. 閉会

以上